

# 取り戻したい鉄道風景

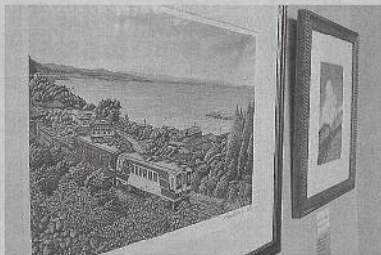
## 久慈の道の駅で展示

### 被災前後写真とイラスト



東日本大震災による沿岸部の鉄道被害や復旧状況などを展示した「被災復旧写真展」と、東北地方の鉄道風景を描いたイラスト展「明日の風を幸くために」が、久慈市中町の「道の駅くじ」やませ上風館」で同時開催されている。被災状況とともに、イラストを通じて震災前のような風景を知ってもらおうと、復旧・復興に向けた支援を広げるのが狙いだ。

JR東日本などが実施中の大規模光企画「いわてデザイン」(4～6月)に合わせたイベント。鉄道を利用した観光客が増えると思われることから、「街の駅・久慈」が主催した。写真展では、JRや二陸鉄道、久慈市周辺でタウランニング」などが提供した約340点を展示。泥だらけになったJR八戸線有



●線路に押し寄せたがれまの写真などが並ぶ「被災復旧写真展」。様々な鉄道風景が描かれたイラスト

家駅の待合室(洋野町)や津波でなぎ倒された防風林(野田村)など、鉄道を中心に震災直後の生々しい写真が並ぶ。

一方、イラスト展では、埼玉県在住の鉄道画家・松本忠氏の水彩画51点を展示している。海沿いを走る二陸鉄道の列車や、雪の積もったJR大船渡線竹駒駅(陸前高田市)など、東北各地の穏やかな沿線風景が描かれている。

「被災状況だけでなく、鉄道が元気だった時の風景も見てほしい。かつての姿

を取り戻すための応援をし、購入に充てられる。その切符は、首都圏のイベントで、来客増加につなげた。5月15日まで。午前9時午後6時。入場無料。